

第一節 明治二十七年

東京美術學校第六年報 明治廿七年分

學規

八月十日本校規則學科課程中經何ノ上改正ス今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

改正學科一覽表

科名	學科	舊時間	増減時間
豫備之課程	用器畫法	二時	削ル
全	幾何學	三時	削ル
全	和漢文學	三時	削ル
豫備之課程	體操	二時	増
全	書畫學	二時	増
全	用器畫法	二時	削ル
繪畫科一年	全	二時	増
全	美術解剖	二時	削ル
詩繪科一年	歷史	二時	削ル
各科一年	美學及美術史	一時	増
全	體操	一時	増
全	和漢文學	二時	削ル
各科二年	體操	一時	削ル
全	體操	二時	加フ

備考 各科トハ繪畫、彫刻、彫金、鑄金、詩繪ノ五科ヲ云フ

十二月三日本校規則中經何ノ上左ノ通改正ス

第九條但書左ノ通改ム

但道廳府縣立尋常中學校及ヒ本校ニ於テ適當ト認メタル郡市町村立私立尋常中學校卒業以上ノモノハ該校長ノ證明ニ依リ(一)ヨリ(二)マテノ課目ノ試験ヲ要セス

本校ニ於テ適當ト認メタル公私立技藝學校ノ卒業生ニシテ該校長ノ品行善良學術優等身體強健ト證認シタル者ハ相當ノ人員ヲ限リ試験ヲ須ヒス入學セシムルコトアルヘシ

第十一條へ左ノ一項ヲ加フ

第九條但書第二項ニ該當スル者ハ手數科トシテ試験料ノ半額ヲ

納ムヘシ其手續ハ本文ニ準ス

第十二條中試驗料ノ下へ左ノ五字ヲ加フ

又ハ手數料

第一號書式中試驗料ノ下へ左ノ括弧中ノ三字ヲ加フ

(手數料)

處務

本年間處理シタル事務ニ關シ往復シタル公文ノ數ヲ舉クレハ發送三百十件收受三百四十三件合計六百五十三件ニシテ之ヲ細別スレハ左ノ如シ

發送

庶務教務 百六十六件
會計事務 百四十四件
庶務教務 百九十八件
會計事務 百四十五件

收受

會計事務 百四十五件

合計二百八十八件ヲ減セリ

本年中處理セシ事務ノ要項ヲ擧クレハ左ノ如シ

一月八日授業始ノ式ヲ執行ス

二月五日各正科及撰科ニシテ本校所定ノ課程ヲ履修シ定規ノ試業ヲ完了シタル生徒二十二名へ卒業證書ヲ授與ス 十一日紀元節ニ付

御影奉拜 勅語捧讀式ヲ執行ス

三月二日規則第廿五條ニ依リ成規ノ試業ヲ完了シタル鑄金科生徒一名へ卒業證書ヲ授與ス九日 天皇 皇后両陛下御結婚滿廿五年ノ御祝儀ヲ行ハセラル、ニ付御影奉拜祝意ヲ表ス

四月三日神武天皇祭ニ付 御影奉拜式ヲ執行ス 十日ヨリ向フ一週間経同ノ上本校生徒成績物展覽會(解説)ヲ開キ閉會後取片付ノ為引續キ一週間臨時休業ス

六月四日日本八月豫備之課程生徒五十名募集スルニ依リ各新聞及官報へ廣告シ并ニ道廳長官各府縣知事へ圖書講習生志望者ト共ニ入學志願者ヲ特選スヘキ旨照會ス 七日本校第五年報(明治廿六年分)及本年四月末調査ニ係ル生徒活力検査表上申ス

七月十一日各正科及撰科ニシテ本校所定ノ課程ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了シタル生徒貳拾名へ卒業證書ヲ授與ス

十月四日本校設置記念日ニ付 御影奉拜式ヲ執行ス

十一月三日天長節ニ付 御影奉拜 勅語捧讀式ヲ執行ス

十二月十一日閣龍世界博覽會へ当校ヨリ出品シタル生徒製作物ニ對シ賞状ヲ受領ス其譯文左ノ如シ

東京美術學校生徒ノ製作ニ係ル出品物ハ美術上優等ナル品位アル

コトヲ證ス

千八百九十四年七月廿五日

審査委員長 南 高 次 郎

審査委員長 ジョンボイドサッカ

美術部委員長 ケービュエンツ

十二月廿七日本校一覽(自明治廿七年至全廿八年)編成ニ付上申ス

本年間本校ニ於テ他向ノ依嘱ニ依リ製作ニ從事シタル美術品及美術工藝品等ニシテ前年ヨリ繼續事業若クハ本年依頼ヲ受ケンモノニシテ竣工未竣工ノ品種ヲ擧クレハ左ノ如シ

前年ヨリ繼續事業ニシテ本年竣工ノ分		本年依嘱ヲ受ケン事業ニシテ竣工ノ分	
品名	個數	依頼人	
全上 未竣工翌年へ繰越ノ分	八拾枝	高等商業學校	
楠公銅像	壹	住友吉左衛門	
故西郷銅像	全	樺山資紀外一名	
故山田伯銅像	全	南部甕男外一名	
蒔繪標本	六拾枚	高等商業學校	
刀	貳	大久保利和外一名	
全上 未竣工翌年へ繰越ノ分	口		
純銀製花瓶	壹	中橋徳五郎	
日蓮上人木型	壹	佐野前助	
西洋室内裝飾木組	壹	湊兵助	
及諸張付彩畫	式		

研究ノ爲京都府及滋賀縣へ出張ヲ命ス 十九日理學士足立震太郎
へ理科授業ヲ臨時囑託シ報酬トシテ一ヶ月金六円贈付ス

二月二日雇後藤貞行へ栃木縣下出張ヲ命ス 十日東京府士族有住齊
へ向フ二ヶ月間考古學中美術ニ関スル礼節儀式ノ講授ヲ囑託シ報
酬トシテ一ヶ月金貳拾五円贈付ス 十四日雇後藤貞行へ栃木縣下
出張ヲ命ス 廿七日書記糟屋正通依願本官ヲ免セララル

三月六日彫金科授業囑託向井繁太郎ノ手當一ヶ月金貳拾円ニ進ム

全日助教狩野友信九級俸ヲ給與セラレ本校卒業生石川縣士族岡
本勝元全東京府士族下村晴三郎各助教ニ任セラレ八級俸ヲ給與
セララル 十三日教授橋本雅邦へ學術研究ノ爲宮城縣下出張ヲ命ス

十六日教授今泉雄作全竹内久一へ學術研究ノ爲千葉縣下出張ヲ

命ス 廿三日用器畫法囑託教員小島憲之へ明治廿六年四月ヨリ廿
七年三月マテノ報酬トシテ金百八十円贈付ス 廿八日非職印刷局

屬高田松男へ雇ヲ命シ月俸金廿五円給與ス 卅一日本校卒業生北
海道士族石川巳七雄全茨城縣士族武田三四郎へ雇ヲ命シ各月俸貳
拾円給與ス 全日理學士足立震太郎ノ臨時理科授業ノ囑託ヲ解ク

全日囑託員藤田文藏ノ報酬一ヶ月金二十八円ニ進ム

四月十四日雇武田三四郎依願解雇ス 十六日教授高村光雲助教岡
崎雪聲へ學術研究ノ爲府下多摩郡へ出張ヲ命ス

六月十四日書記平尾旨延四級俸給與セララル 廿五日東京府士族笹岡
民次郎へ雇ヲ命シ月俸金十円給與ス 卅日書記平尾旨延依願本官
ヲ免

七月三日教授竹内久一へ學術研究ノ爲京都奈良及福岡縣博多出張ヲ
命ス 十九日教授巨勢小石非職ヲ命セララル 廿三日三重縣平民福

地復一へ東洋美術史ノ講授ヲ囑託シ報酬トシテ一ヶ月金十五円贈
付ス

八月三日東京府平民山名貫義へ繪畫科授業ヲ囑託シ〔解説3〕當分隔日出勤報
酬トシテ一ヶ月金三拾円贈付ス 四日本校卒業生鹿兒島縣士族新
納忠之介全三重縣平民龜田德太郎へ雇ヲ命シ各月俸貳拾円給與ス

十五日非職教授長野宗臣非職滿期トナル 廿八日帝國博物館技
手小杉楳邨へ書學授業ヲ囑託シ報酬トシテ一ヶ月金拾円贈付ス

廿一日藤田文藏ノ囑託ヲ解ク

九月十九日助教劍持忠四郎へ實驗用材料取調ノ爲宮城縣出張ヲ命
ス 廿七日教授竹内久一へ學術研究ノ爲書記安井一匡へ製作材料
購入トシテ共ニ愛知縣名古屋へ出張ヲ命ス

十月六日教授竹内久一囑託員吉田彦六郎へ學術研究トシテ囑託員向
井繁太郎へ製作上参考物取調トシテ栃木縣下日光へ出張ヲ命ス

十七日教授今泉雄作京都市美術工藝學校長ニ轉任ス 廿三日東京
府平民川之邊一朝へ詩繪科授業ヲ囑託シ報酬トシテ一ヶ月金拾五
円贈付ス

十一月七日德島縣平民本田幸之助へ歴史授業ヲ囑託シ報酬トシテ一
ヶ月金拾五円贈付ス 十三日教授竹内久一全石川光明各十級俸下
賜セララル全日囑託員向井繁太郎助教ニ任セラレ七級俸給與セラ
ル全日雇伊東貞文ノ雇ヲ解ク 十九日雇後藤貞行へ製作材料取調
ノ爲栃木縣下へ出張ヲ命ス 廿四日助教海野勝珉囑託員福地復
一各教授ニ任シ高等官七等ニ叙セラレ海野勝珉ハ十級俸ヲ福地復
一ハ年俸金五百円ヲ下賜セララル 卅日東京府平民橋本市藏へ詩繪
科調漆授業ヲ囑託シ報酬トシテ一ヶ月金二十五円贈付ス

生徒

本年末現在生徒ノ數ハ二百三人ニシテ皆自費通學ナリ今之ヲ前年末人員ニ比スレハ十一人ヲ減セリ

而シテ其學科別道廳府縣別ハ別表ノ如シ

本年中生徒ニ關スル重モナル事項ヲ舉クレハ左ノ如シ

一月九日ヨリ二月十日マテ本年二月ヲ以テ學年ノ終リヲ告クル各撰

科生徒ノ試業ヲ行フ今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

科名	現人員	受験者	欠席者	及第者	落第者
繪畫撰科三年	一	一		一	
彫刻撰科三年	二	二		二	
合計	三	三		三	

二月五日繪畫科十名彫刻科二名彫金科二名鑄金科二名蒔繪科四名彫刻撰科一名彫金撰科一名計廿二名各本校所定ノ課程ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了ス今其人名及卒業後ノ狀況ヲ舉クレハ左ノ如シ

繪畫科(別ニ〇印アルハ普通圖畫科教員タルノ資格アルモノヲ示ス)

△東京美術學校助教

○自營

△東京工業學校助教

×研究科へ入學

×全

○自營

△新潟縣長岡尋常中學校教員

△私立美術學館教員

下村晴三郎 東京士
溝口禎二郎 全

島田 佳矣 石川士
龜岡 末吉 群馬士

西郷 規 長野士
小島 光真 岐阜平

島田 友春 山口士
島田 友春 山口士

△青森縣尋常中學校八戸分校助教諭

△私立攻玉社教員

彫刻科

○自營

○全

彫金科

一年志願兵

×研究科へ入學

鑄金科

△東京美術學校雇

×研究科へ入學

蒔繪科

○自營

○自營

○全

彫刻撰科

○自營

彫金撰科

○自營

三月五日本校規則第二十五條ニ依リ鑄金科生徒一名成規ノ試業ヲ完了ス其姓名及卒業後ノ狀況左ノ如シ

×研究科へ入學

五月十八日ヨリ六月廿日マテ豫備之課程及各正科并ニ撰科生徒百五

島岡 常藏 東京平
三輪 青谷 愛知平

宮本二七郎 鹿児島島士
峯 斧吉 佐賀平

飯田仁三郎 東京平
酒井利之助 全華

石川巳七雄 北海道士
宮田辰太郎 佐賀士

石川 準禮 石川士
津村米太郎 愛知士

秋月 復郎 宮崎士
武谷 富造 東京士

小和田武司 東京士
大野和歌三郎 東京平

武田三四郎 茨城士

十二名ノ學年試業ヲ行ヒシニ進級セシモノ各科ヲ通シテ百三十二名アリ今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

科名	現人員	欠席者	受験者	及第者	落第者
豫備之課程	三三	三	二九	繪画科へ 彫刻科へ 彫金科へ 鑄金科へ 蒔絵科へ 小計	一四 二 四 五 三 二八
繪畫科一年	三三	三	三〇	二九	一
繪畫科二年	二三		二三	一九	四
繪畫科三年	一一		一〇	〇	
彫刻科一年	一一		一〇	〇	
彫刻科二年	三	一	三	三	
彫刻科三年	二		一	一	
彫金科一年	四		四	四	
彫金科二年	五		五	五	
彫金科三年	二		二	二	
鑄金科一年	三		三	三	
鑄金科二年	三		三	三	
鑄金科三年	三		三	三	
蒔絵科一年	四		四	三	
蒔絵科二年	六		六	五	
蒔絵科三年	三		三	二	
繪畫撰科一年	一		一	一	
繪畫撰科二年	三		三	二	
繪畫撰科三年	二		二	一	
合計	一五二	一〇	一四二	一三二	一〇

七月十日繪畫科八名(但外ニ降級者二名欠席者二名アリ)彫刻科七

名彫金科一名鑄金科一名蒔絵科二名彫刻撰科一名計二十名各本校所定ノ課程ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了ス今其卒業後ノ狀況ヲ擧クレハ左ノ如シ

繪畫科 (肩ニ〇印アルモノハ普通圖畫科
教員タルノ資格アルモノヲ示ス)

△長崎私立活水女學校教員

○自營

○全

一年志願兵

○自營

○全

×研究科へ入學

○自營

彫刻科

△東京美術學校雇

△全

○自營

○全

○全

○全

○全

○全

○自營

○自營

○自營

。白濱 徵長崎士

。原 貫之助 福岡士

。原 陽一 山口士

。鈴木 信一 山口士

。志賀 静山 東京平

。堤 雄長 東京華

。有元 轍三郎 岡山平

。大西 鐵造 三重士

。新納 忠之介 鹿児島士

。龜田 徳太郎 三重平

。黒岩 倉吉 東京平

。本山 辰吉 高知士

。田中 助太郎 福岡士

。板谷 嘉七 茨城平

。美田 萬寿之助 埼玉平

。角田 宇真藏 島根平

。西原 猪太郎 京都平

詩繪科

○自營

石井吉次郎 東京士

○全

山本 和全 全

彫刻撰科

○自營

増田 有信 宮城士

八月廿四日ヨリ全月廿日マテ本年募集ニ應シタル入學志願者八十五

名ノ入學試験ヲ行ヒシニ合格セシモノ四十一名又道廳府縣ヨリ特

選ニ係ルモノ九名ノ内合格セシモノ七名計四十八名アリ

九月十一日入學試験ニ合格シタルモノ及道廳府縣特選生中合格者計

四十八名ノ入學ヲ許ス全日本校規則第十八條ニ依リ學業品行殊ニ

優等ナルモノ左記十四名ヲ特待生トシ一學年間ノ授業料ヲ免除ス

繪畫科一年

齋藤 新助 岡山平

全

大石 榮雄 静岡士

彫金科一年

四谷 正美 岡山平

繪畫科二年

今田 直策 宮城平

彫刻科二年

村尾 平吉 鳥取平

彫金科二年

小泉 永雄 石川士

鑄金科二年

山本茗次郎 石川平

詩繪科二年

磯矢邦之助 大坂平

繪畫科三年

佐藤栄三郎 宮城平

彫刻科三年

菅原大三郎 山形平

彫金科三年

田雜 五郎 佐賀士

繪畫科四年

井上 良慶 新潟平

彫刻科四年

後藤 省吾 和歌山士

彫金科四年

岡部 覺弥 福岡平

十月本校規則第廿六條ニ依リ試験ノ上豫備之課程生徒一名ハ全月二

日ヲ以テ繪畫撰科一年ヘ繪畫科一年生徒一名ハ全月十一日ヲ以テ

繪畫撰科二年ヘ編入ス

本年中繪畫科卒業生ニシテ尋常師範學校尋常中學校高等女學校圖畫

科教員免許狀ヲ受領セシモノ十三名又生徒ノ願ニ依リ在學證明書

ヲ交付シタルモノ六十八名アリ

前記ノ外本年間ニ於ケル入退學其他生徒ニ関スル事項ヲ擧クレハ

左ノ如シ

再入學

一名

研究科ヘ入學

七名

規則第十九條ニ依リ譴責セシモノ

一名

全上 除名セシモノ

一名

全上 退學ヲ命シタルモノ

二名

死亡シタルモノ

一名

疾病事故等ニ依リ退學ヲ許シタルモノ

二十名

(道庁府県別各科生徒現員表、歳入歳出・所有物件等に関する事項は省略)

解説

1 生徒成績物展覧会・校友会臨時大会

創立より五年を経た二十七年春、本校では五年間の教育の実体を公開する生徒成績物展覧会と校友会の展覧会とが大々的に開催され、大きな反響を呼んだ。『錦巷雜綴』第二卷(同年六月十五日発行)にはその報告が掲載されている。